

受検番号
氏名

注 意

一 問題は、表と裏にあります。
二 答えは、すべて解答欄に記入しなさい。

一 次の文章を読んで、1～7の問いに答えなさい。

表 合 計

合 計

二 次の文章を読んで、1～4の問いに答えなさい。

三 次の文章を読んで、1～6の問いに答えなさい。

三 次の方章を読んで、1～6の問いに答えなさい。
 刻子せんしは、親のために命を捨てんとしけるほどの、孝行なる人なり。その故は、父母老いて、ともに両眼をわづらひしほどに、眼の薬なるとて、鹿の乳を望めり。刻子、もとより孝なる者なれば、親の望みをかなへたく思ひ、すなはち、鹿の皮を着て、あまたむらがりたる鹿の中へまぎれ入り侍れば、獵人、これを見て、まことの鹿ぞと心得て、弓にて射んとしけり。その時、刻子、これは、まことの鹿にはあらず、刻子といふ者なるが、親の望みをかなへたく思ひ、偽りて鹿のかたちとなれると、声をあげて言ひければ、獵人驚いて、その故を問へば、ありすがたを語る。されば、孝行のころぞし深き故に、矢をのがれて帰りたり。

そもそも、人として、鹿の乳を求むればとて、いかでか得さすべきなれども、思ひ入りたる孝行の、思ひやられてあはれなり。

(「御伽草子」による)

*すなはち…そこで *心得て…わかつて

1 わづらひを現代仮名遣いに直し、すべて平仮名で書きなさい。

2 本文中のA～Cの主語として適するものを、次のア～エからそれぞれ一つずつ選んで、記号を書きなさい。

- ア 父母 イ 獵人 ウ 鹿 エ 刻子

A	
B	
C	

3 鹿の中へまぎれ入り侍ればとあるが、このときの状況を表しているものとして適するものを、次のア～エから一つ選んで、記号を書きなさい。

- ア 鹿の群れにいつの間にか迷い込んでいる
 イ 鹿の群れの中で鹿と見分けがつかない
 ウ 鹿の群れの動きに気を取られている
 エ 鹿の群れがなかなか見つからない

4 ありすがたを語る とあるが、刻子は鹿のまねをした理由をどのように語ったのか。解答欄にしたがつて、**十五字以内**で書きなさい。

父母が両眼を病んでいるので
から

5 本文中における刻子の行動に最も近いものはどれか。次のア～エから一つ選んで、記号を書きなさい。

- ア 海老で鯛を釣る
 イ 馬子にも衣装
 ウ 虎穴に入らずんば虎子を得ず
 エ 長いものには巻かれる

6 本文には筆者の感想が書かれている箇所がある。その内容を、次のようにまとめた。「a」には二字で適する語句を書きなさい。また、「b」には二字で、「c」には**五字**で当てはまる語句を、本文中からそれぞれ抜き書きしなさい。

筆者は、刻子は人間であるのだから、鹿のように行動することは、本来は「a」なことであるのに、そうせずにはいられない刻子の「b」の心を、「c」と感じている。

a	-----	b	-----	c	-----
-----	-----	-----	-----	-----	-----